



発行日八十二月四 (Publication date: December 4, 1944) 東京朝日新聞社 (Tokyo Asahi Shimbun Co.)

天気 霧 晴 (Weather: Fog, Clear) 今朝も晴も雨西 (This morning also clear or rain in the west) 風時々晴 (Wind occasionally clear)

さくら

島田 忠夫

野趣に富む梅を水墨畫に
見立てるとすれば、櫻の綺
麗な美しさは大和繪に
へらへらしやう。

幼年の頃からの私は梅の
花が好きで、同時に櫻の花
がたまらなく好きであつた
一體、童子が梅やさくらを
好むなどと言ふのはをかし
いやだが、花の明るさ
は童心にびつたりする何
のかがあるやうに思ふ。幼
年の記憶にはしばしば梅が
貝殻のやうに點在し、また
櫻が珊瑚のやうな妙である。
芥川龍之助の小説「一塊の
土」に、童子が櫻の花を
てあそぶ所があつた筈であ
る。

私の記憶の一番古くも
は、四五歳の頃のことであ
る。當時祖父が樂地の天主
教會に居つたかして、父に
つれられて初めて訪ねた赤
煉瓦の西洋館と、苑に櫻が
咲いてゐたことを妙に鮮か
に覚えてゐる。その頃父は
東北から上京するに、菓
子や、牛乳瓶を四五本、用
意してあのマツチ箱の汽車
に半日除り乗つて来た。車
内にドイレットがなかつた
から、停車の間に驛の便所
へ走るのだったか、よほど
大きな扉でないその時間
がない。父は一策を案じて
ビールを買ひ、飲み干して
からその空瓶へ童子の私
は憶おもなく小用を足し
て、

祖父の私をも、なして玩
具を取寄せたり、珈琲の入
つた角砂糖の味は忘れられ
ない。田舎町へ歸つてからも
が、父を困らせた。私
は記憶はそれのみならず、
上教會の赤煉瓦の壁に、

講談 (8) 中川雨之氏作 近藤 敏氏書

隠密小天狗

「邪魔にさへなななかつた
り、今夜は泊り買ふか、
と、俊作はうろたへる眼を
して、吹くやうに云つた。
「ま、ま、眞實の、ま
まか？」
小夜美の顔は、見る
喜びに輝いた。

こころ知らなかつた俺の
手が、廿八歳の今日、初め
て異性に觸れたのだ。
俊作は、大きな罪を犯し
たやうな苦しみと良心に感
じ、
「息にグツグツ飲み干した
酒は、腸の底まで、毒でも
呑むやうに苦く飲み込んで
行つた。
「ま、ま、眞實の、ま
まか？」
小夜美の顔は、見る
喜びに輝いた。



日光廟 珠雲 小野務平

古柏元彬何曾
丹楓碧使見威光
泉雄自有時時策
開外握權三百箱
(昭和一一)

△紙幣、金貨の價
値を同一とす(明
治二二) △全國新聞
記者大會を富山市に開く
(昭和一一)

和洋

建築 家具
家具 器具
家具 器具
家具 器具

紳士の喫茶店

グリンバツカス
サービス料一割(外邦別)
平市銀座通りJEL七〇二

生徒募集

刺繍科 研究科
平市田町シンガー洋裁女學院

京染の御用

平出身 京都 青木へ
染元 京木京染店

磐城の御みやげ品

靈峰羊羹 (名産柿煉)
平屋賣店

外務員募集

成功、収入の早道
奮闘ノ士ヲ望ム

眼鏡

最新式
各回製
富豊に取揃へて御座います

京染の御用

平出身 京都 青木へ
染元 京木京染店

根本産科専門醫院

手術室完備
入院随時

根本産科専門醫院

手術室完備
入院随時

